

8月の輸出は鈍化

政策・経済研究部 研究員 伊藤 基

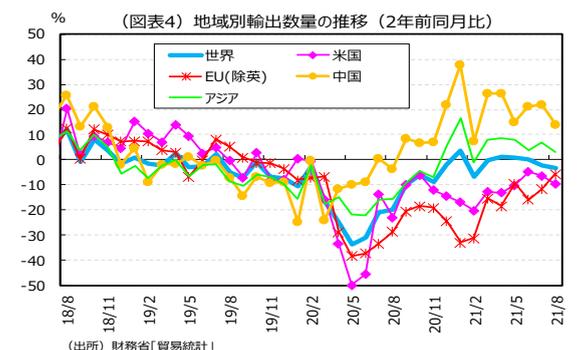
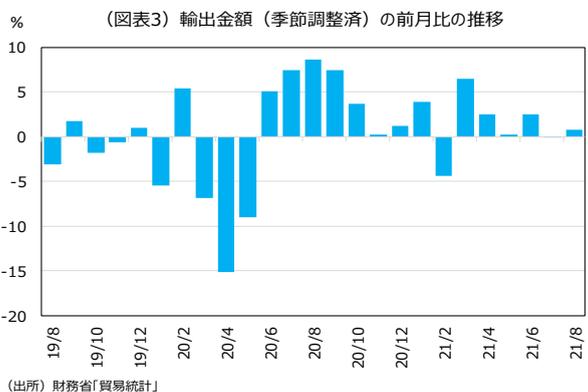
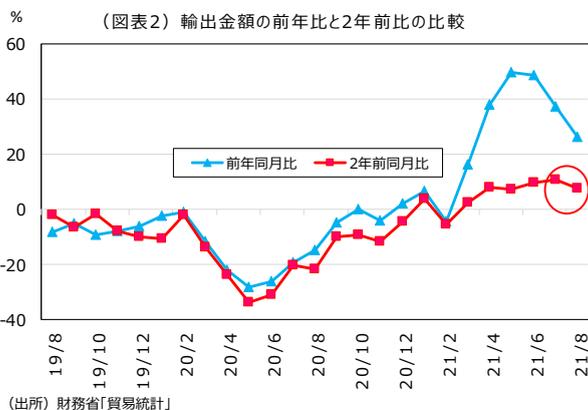
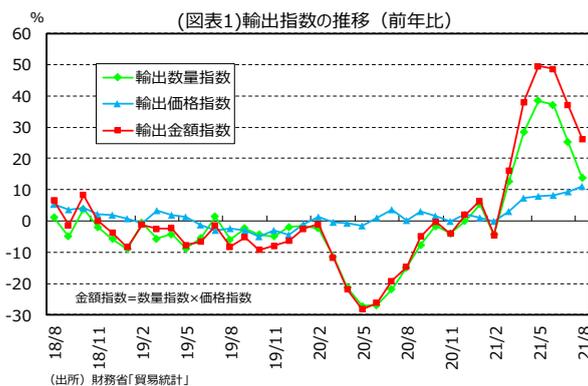
1. 輸出は伸びが鈍化

財務省から発表された8月の貿易統計によると、輸出金額は前年比+26.2%と前月(同+37.0%)から伸びが鈍化し、事前の市場予想(同+34.1%)も下回った(図表1)。これで3ヵ月連続の伸び幅縮小となった。コロナ禍による影響を除去するために、2年前の2019年8月対比で見ても+7.6%と、前月(同+10.7%)から伸びが鈍化した(図表2)。8月は、世界的に新型コロナの感染再拡大が見られ、経済活動に一部制約がかかったことや、半導体不足で自動車輸出が落ち込んだことなどによって鈍化した形と考えられる。季節調整済前月比では+0.8%で、2ヵ月ぶりにプラスに転じたものの、小幅上昇にとどまった。(図表3)。

2. 半導体不足が影響

輸出の実勢を示す輸出数量の伸びを主要相手国・地域別に2年前比で見ると、米国が▲9.5%(7月:同▲6.2%)、EU向けが▲5.6%(同▲11.6%)、中国向けが+14.1%(同+21.7%)と、前月から改善したのはEU向けのみだった(図表4)。EU向けが改善したのは、域内の多くの国で新型コロナの感染拡大が一服したことにより、経済再開の動きが加速した影響が大きかったと思われる。品目別に見ると、一般機械が7月の同▲14.0%から8月は同▲3.1%と、マイナス幅が大きく縮小したことが寄与した。一方、米国向けについては、全体の約3割を占める輸送用機器の輸出が、7月の同▲0.5%から8月は同▲16.2%と大きく落ち込んだことが足を引っ張った。半導体不足や東南アジアからの部品調達難の影響を受けた形である。

ここへきて、日本の大手自動車メーカーが半導体不足を理由に減産を発表する動きが相次いでいる。半導体不足に改善の目途が立たない中、生産が急回復する展開は予想しづらく、しばらくは自動車生産の落ち込みが対米輸出だけでなく、輸出全体の足を引っ張る状態が継続すると予想する。ただ、自動車に対する需要が落ち込んだわけではなく、あくまでも供給制約であることから、半導体不足が解消に向かえば、再び輸出



の牽引役に再び咲く展開が期待できる。ただし、その時期は来年にずれ込む可能性が高まっている。

また、これまで日本の輸出を牽引してきた中国向けも、伸び幅の縮小基調が顕著である。主要品目別に見ると、一般機械の伸びが7月の同+23.5%から同+12.0%へと大幅に鈍化したほか、電気機器も7月の同+39.7%から8月の同+21.4%へと大きく鈍化した。中国の主要経済指標を見ると、昨年からの回復局面が一巡し、足元で減速傾向が強まっている。多くの地域で夏場に豪雨に見舞われたことや、湖北省や武漢市でコロナの感染再拡大が確認され、行動制限措置が実施された影響があったと考えられる。中国景気の減速傾向は当面続くと見られ、しばらくは、日本の輸出の牽引役への復帰は期待しにくくなっている。

3. 年度後半に向けて輸出の伸びは鈍化へ

中国景気は減速傾向を強めており、年度後半にかけても日本からの輸出の急回復は期待できないだろう。欧米は、「With コロナ」ポリシーの下で景気は回復基調を強めると思われるが、半導体不足で輸送用機器の輸出低迷が続くため、中国向け減速分を補うのは難しいと考えられる。こうした状況下で、年度後半の輸出は伸び悩む展開が続くと予想される。

※本レポートは、明治安田総合研究所が情報提供資料として作成したものであり、いかなる契約の締結や解約を目的としたものではありません。掲載内容について細心の注意を払っていますが、これによりその情報に関する信頼性、正確性、完全性などについて保証するものではありません。掲載された情報を用いた結果生じた直接的、間接的トラブルや損失、損害については、一切の責任を負いません。またこれらの情報は、予告なく掲載を変更、中断、中止することがあります。

●照会先● 株式会社 明治安田総合研究所 〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-11 TEL03-6261-6411